

「近年のドクターネットの傾向について」

ドクターネット事務局 菅原真悟

菊池郡市在宅ドクターネットを2014年に立ち上げて、今年度で10年になります。2025年問題、2040年問題は皆様も耳にしたことがあると思いますが、今後の日本には在宅医療の充実が必須となります。私たちドクターネット事務局も更なる機能強化・充実を図っていくことが必要と考えています。



まず、訪問診療の先生探しは、これまでの8年を振り返ると下記の実績のとおりです。

訪問診療医（連携医）探し

患者住所	菊池	合志	大津	菊陽
2014年度	3	0	0	0
2015年度	2	0	1	0
2016年度	7	0	0	0
2017年度	4	0	0	0
2018年度	4	0	1	0
2019年度	0	0	0	0
2020年度	6	0	0	0
2021年度	9	0	1	0
2022年度	14	0	0	0
2023年度	8	0	1	0
小計	57	0	4	0
合計	61			

8年間で61件の実績がありました。年度でバラツキがありますが、年平均6件程度の相談となっています。また地域的に見れば、圧倒的に菊池地区が多く、合志・菊陽は近くに訪問診療を積極的に行っておられる医療機関があるためか、当事務局への相談は少ない状況です。

近年の傾向としては、コロナ当初は相談も減りましたが、病院の面会制限に伴い、自宅でのお看取りの相談が増えていました。直近では、入院中の方の相談が多く、先生が決まり次第退院や訪問診療というよりもお看取りに近い、余命がかなり厳しい状態での退院の方が増えています。そこで、これまで家族の来院後に調整開始していた業務を、入院中の病院に訪問し、患者さんご家族の意向をしっかりと把握し、出来るだけ早く訪問診療される先生が決めるように工夫しています。



今後の課題としては、菊池郡市在宅ドクターネットをより多くの、熊本市内の基幹病院をはじめとして医療介護関係者の皆様に相談してもらえるように周知していく必要があります。また、訪問診療を担われる先生方の負担を少なくしていくための、様々な取り組みも考えていく必要があると思います。当初のドクターネット創設の理念にある医療を受ける方・提供する方共に安心して継続できる環境づくりを目指します。菊池郡市に住む市民や医療介護関係者の皆様にとって、ドクターネットがあるから安心と言ってもらえるような、仕組みづくりを目指していきます。



次は熊本保健科学大学 松本先生へリレーします。